2021/06/05 及び 07/03

安藤昌益を引き合いに農耕社会を考える(1)(2)

++

安藤昌益に関する先行研究は膨大なストックがあります。報告者はその分野の専門家でもなく、日本(思想)史研究に精通している訳でもありませんので、野狐禅に陥ることも承知の上で、報告させて頂くことになります。なお、下記の安藤昌益のテキストは現在絶版ですので、入手可能な方のみ参照してください。

＊07/03 の報告は、皆さんの関心が高い論点を参考に敷衍しますので、コメントをお願いします。

++

＜1＞江戸時代の経済社会像

(1)人口動態から見る江戸時代

・身分制(階級論)なのか固定(安定)的分業社会なのかという議論

・江戸中期の 3,000 万人という人口制約の維持＝安定的社会の形成

＊江戸時代の人口グラフ参照➔(p.1)

・農耕社会の自然的存在要件(社会生産力との関連)

(2)米価変動の推移＝江戸時代から現代

・世界に先駆けた「先物取引」による価格の安定＝変動率は 60%程度に収斂

・米価高騰:大規模災害と政治社会混乱の 2 時点の確認

＊米価変動のグラフ参照➔(pp.2-3)

・高収量生育技術と恵まれた気候風土

(3)安藤昌益(1703-1762)の世界

安藤昌益著(安永寿延・校注)『稿本・自然真営道』(東洋文庫 402)平凡社、1981。

①本書の事情について(1753 年発刊)

・現実離れした理想社会の在り方を具体的に描いている

・階級否定的で男女平等思想の主張

・日本思想史上でも稀な存在

➔昌益思想を援用して「現代の社会問題に対して、正義実現を見出そうとする志向は、自己陶酔以外の何物でもない」との指摘もなされている

・著述の論拠とされる出典等が不正確、かつ趣旨を取り違えている例が多い

②先行研究書目録について

・八戸市立図書館編『安藤昌益』1974 年発刊に「安藤昌益関係資料目録」

・雑誌『季刊:昌益研究』八戸市立図書館編集

・関東大震災で東大に保管されていた大半の著作物(原本)が焼失

③昌益思想の根幹

・通説の医学学説に対して批判的な論陣を張り、一般の世人を救済するという志向

・陰陽五行説を継承

・「陰陽」を「進退」に置き換える

・五行説「五行・十気」（三巻本：『統道真伝』）から四行説「四行・八家」（百巻本の「大序」）への変更・変遷

・四行は「木・火・金・水」+「土」＝五行

➔真（中真）である所の「五」が「進と退」との活動を不断に営んで、万物を生成する活動の法則が「真営」

➔「自然」とは「互性の妙道」＝木・火・金・水の四行が相互に関連しながら霊妙なる生成の活動を展開する

・「自然」➔「自（ひと）り　然（す）る」もの＝「生命あるものは自発的に活動する」という理解　➔　機械論的な人知によって左右されることがない、という理解（＝非西欧的概念）

『稿本』から＜以下抜粋に関連して＞

p.7「自然とは」について　➔（p.4）

p.12「道とは」について　➔（p.5）

p.61「私法」について　➔（pp.6-7）

p.78「ある人曰く」について　➔（p.8）

p.81「聖人の中で」について　➔（pp.9-10）

p.403 から　労働、余分、直耕、互性について　➔（pp.11-12）

◎江戸時代の学問の特徴

・数学と技術をつなぐ物理概念が欠落している＝科学と技術の分離

・社会思想はいわゆる観念的で、宗教化しやすいイデオロギー構造

・これに対して、中国の学問は政治主義的傾向（一君万民の統治思想）が強い

◎農本主義論への回帰という議論

➔サービス経済化ではない脱工業化社会論として、時代を逆流できるか

・シャルル-フーリエ（1772-1837）『四運動論』（1808 年）との類似

＜2＞現代の農耕社会論にまつわる諸問題

（1）地球温暖化現象➔世界人口増と全球的規模でのエネルギー多消費社会の到来

・これに地球が耐えられなくなっている（時代的人間に従えば）

＊衛星画像を参照（➔pp.13-15）

・SDGsという「僅かな節約運動」でカーボンゼロは実現できるのか

（2）国内農業統計から➔高コスト構造の進展による離農促進

・戦後農政の基本は農地改革に原点があり、農地制度がネックになっている

・これを外すと農水省が解体してしまう、という戦後行政的制約

・農業生産額を上回る関連行政コスト

・小規模農業の実態➔採算性、趣味の園芸、商品性から考える

・作物育成技術　・2020 年種子法の改正　・農業技術　・補助金政策

農業統計：農業人口と農業所得の推移（全国）

年	農業就業人口	農業所得 (a-b)	農業粗収益 (a)	農業経営費 (b)	資本集約度 (b/a=%)
1960	1,450	22	35	13	37
1975	790	115	208	93	45
1995	414	144	379	235	62
2009	260	104	431	327	76
2019	168				

（注）「農業就業人口」とは自営農業のみに従事、又は自営農業が主の者。単位は万人。

「農業所得」は一戸当たり。単位は万円（当年価格）。

（出典）農水省統計より作成。

＜3＞現代の社会思潮との関連

（1）気候変動と生態系論

・ローマ-クラブの『成長の限界』

・レスター-ブラウンの『地球白書』

・梅棹忠夫『文明の生態史観論』　他

（2）グローバル化による格差拡大論について

・新自由主義論と国内調整機能（所得分配・再分配／給与体系）の問題

・労働市場問題➔正規・非正規労働の差別的扱い

➔労働組合の取り組み姿勢＝運動方針や組織編成に問題はないか

・いわゆる左翼は革新勢力か＝問題の時代的制約（左右の対称性）

・「貨幣の廃棄」等々の議論よりも「所得分配」の改革の方が現実的

・当面する課題への取り組みを蔑ろにできない

・批判は良いが代替政策と具体的取り組みと対策はないのか
・相互扶助や「貧困の共有」のためのファンド創設など
・モースの『贈与論』 ・欧米の寄付の文化
・ナポレオン法典（1804 年）による私有財産制の法制化
➔プルードンは「私有財産とは泥棒である」といっているが
・近隣窮乏化策を採ると大量の移民が自国に流入する、というパラドックス

（3）成長論と発展論の相違＝いずれも資本主義的発展の一つの形態
・産業企業（労働市場）交替による経済成長（シュンペーター的創造的破壊）
・単体膨張論（単純発展論＝一社会全体としての価値増殖）とは異なる
・長期的観点からの歴史局面

（4）恐慌論と景気循環論
・産業構造論（あるいは産業構造高度化論＝資本の有機的構成の高度化）
➔インド、アジアという広大な世界市場を前提にした販路拡大策
そしてインドは戦後独立したが、人口爆発は止まらない

（5）資本主義の限界論と超越的理念論との対比説
・社会編成論（共同体／政府／市場＝それぞれの機能とシェア）➔脱資本主義か
・社会主義論と修正資本主義論
➔共同体主義は極楽浄土の世界か？
➔単なる終末論、無い物ねだり論になっていないか
共同体論そのものの善悪論、基礎哲学的議論
➔社会改良と社会変革論との競合・協同関係等々
・コペルニクスの世界観や産業革命＝長期持続的な説明原理と改良
・ソルジェニーツィンの反体制論＝体制崩壊によるテーマの消滅
・I.ドイッチャーのキブツとソ連に対する商品経済浸透論による批判
・共同体の規模と「共同体解体論＝資本による組織力」その作用
・「創造的マルクシズム」はマルクシズムそのものを超える可能性を孕んでいる
＝マルクシズムや社会主義思想をアプリオリに善（正義や良心）と捉えて良いか
・宇野理論による『資本論』研究と社会主義論の分離関係
宇野曰く「社会主義政策はやってみなければ分からない」
影響力が大きかっただけに、何をもって成功といえるかは別にして
➔世界各地で色々やってみたが、成功事例に乏しい
➔強権政治の国家だけが残存しているのが実態
＝誰のための国家・国民なのか

・マルクス・エンゲルスは 100 巻[新メガ版等々]もの著書を残しながらも、
社会主義社会像を体系として描けなかった
➔歴史普遍と法則性＝科学的という 19 世紀的フィクションとその限界

◎超越的理念は確かに美しいが、現実的であるかどうかは全く位相が異なる
・「とかく戦時期や受難の時期は夢を描きたがる」という人間的本姓か

以上